

第1回 宇治市乳幼児期の教育・保育のあり方検討委員会会議録

日 時 令和4年4月26日(火) 午後2時30分～3時35分

場 所 宇治市生涯学習センター 一般研修室

出席者

委 員 大方委員、佐川委員、杉本委員、松井委員、武村委員、篠原委員、
好田委員、西川委員、藤田委員、中西委員

事務局 松村市長、岸本教育長、北尾教育部長、上道同部副部長、林口教育支援センター長、
岡野学校教育課長、垣見同課主幹、金久教育支援課長、吉川学校改革推進課長、山
口同課副課長、福井福祉こども部長、柏木同部副部長、川崎こども福祉課長、栗田
保健推進課長、須原保育支援課長、齊田同課主幹、山本同課計画係長、原田同課保
育支援係長

会議内容

1 開会

- ・事務局より「宇治市乳幼児期の教育・保育のあり方検討委員会設置要項」に基づいて、公開で会議を進めていくことを確認
- ・事務局より、会議の成立確認報告

2 委嘱状交付

- ・松村市長より委嘱状交付

3 市長あいさつ

- ・松村市長より挨拶

4 委員・事務局紹介

- ・委員紹介
- ・事務局紹介

5 宇治市乳幼児期の教育・保育のあり方検討委員会設置要項について

- ・事務局より説明

6 委員長及び副委員長の選出

- ・委員の互選により委員長に佐川委員、副委員長に大方委員を選出

7 宇治市の乳幼児期の教育・保育についての現状

・事務局より、資料、資料、資料、資料、資料、資料に基づき説明

委員長： ただ今、事務局から宇治市の乳幼児期の教育・保育についての現状をご説明いただきました。ご質問・ご意見・感想などでも結構です。それぞれの委員のお立場から、現在の状況をどのように感じられたでしょうか。まず、はじめに、大方副委員長からご発言いただいた後、私から左回りでご意見等を頂戴できますでしょうか。

委員： 事務局から丁寧に説明いただきありがとうございます。図や表、データを見ると子どもが減って高齢化が進んでいることは歴然として分かるんですが、まちづくりとして宇治市で子どもを育てる方が増えていくために、どうしていくのか。あり方検討委員会というネガティブなイメージで思うのではなく、宇治市で子どもを育てたい…

委員長： こちら側の音量調整をしますのでお待ちください。少子高齢化が進んでということからお願いします。

委員： 最初の方に戻ってしまいますが、事務局から様々なデータを出していただいて、データを見ると子どもが減って高齢化が進むというイメージになるわけですけど、先ほど市長もおっしゃいましたが、大切なことは未来志向として子どもを育てていきたい、就学前からここでということを目指して、あり方検討委員会がどのような方向性を持っていくことが大切かを考えていけたらと思います。公立としての使命というか役割を考えたとき、特に色々な関係機関との連携がしやすいという利点があるわけですから、支援を必要とする子どもさんや医療的ケア児を含めた配慮や支援をどうしていくのか、子育て支援をどうしていくのかということを検討していけたらと思います。

委員： 資料を拝見しました。感じるころはいくつかあるので、おいおいお話の中で意見を述べていければと思います。本日はざっくりとした印象というような形になります。今乳幼児の施設の問題のような考え方になっていったら困るなという感じを持っています。宇治市の乳幼児期の教育を考えるということは、SDGs、持続可能な社会をつくる、次の宇治市民を育てるスタートであることを考えるときに重要な会議だと痛感しています。幼稚園の園児の数なども資料で出ていましたけれども、ニーズという言葉で言うについつい沢山あることがニーズのように錯覚するところがあるんですが、人ベースで重要性を考えた場合、少なくともその幼稚園を選んで入園されている子どもさんがいらっしゃる。そのニーズは何なのか。その中身ですね。それもニーズとしてとらえて、どういうニーズがあってそこに入ってらっしゃるか、そのことを知ることで本当に必要な手立てが見えてくる。子の数が少ないことは決してマイナスなことではなく、個別、最適な学びというものが模索されている時代ですので、1人ひとり子の幸福な人生のスタートを、どのような形で宇治市が守っていくか、作り上げていくかということと一緒に考えていければ嬉しいなと思います。

- 委員： 公立幼稚園の保護者の思いを伝えられたらいいなと思います。最終的にどのような話になるか保護者としては不安ですが、資料を見させていただいて公立幼稚園の充足率がすごく厳しいのは分かりますし、共働きの方など保育所の需要があるのは分かりますが、その中でも子育てに専念したい方、幼稚園を利用したい方というのもそれなりにおられることも事実なんだなとも改めて感じました。また、特別な支援が必要な児童の数が公立には結構いらっしゃって、その受け皿になっているとも改めて感じました。アンケートには無いのですが、それぞれ通っている保護者の満足度にも着目していただきたいと思いました。公立は遊び中心ですが、その中でも今の時代に必要な力をつけられる、今の時代になくはならない公立の幼稚園だと思いますので、良いところを広めていければと思います。
- 委員： 公立保育所は7園あるんですが、0歳児から1人ひとりを大切に今まで育ててまいりました。併せて保護者の就労を支えるという立場も公立のとても大切なところとして職員が力を合わせてやってきたところです。支援の必要な子ども、いろいろな事情を抱えたお家のこと、公立保育所だからこそ支えられるところも沢山あると思います。また、宇治に帰ってきたいと思える子、保護者も宇治市で子育てしていきたいと思ってもらえるように公立保育所も考えて、取り組んでいかないといけないというふうに思っています。
- 委員： 公立幼稚園の厳しい状況の報告がありましたが、平成31年度から東宇治幼稚園で3歳児保育が試行実施されました。市内の私立幼稚園では4年保育が浸透していることを思うと時間がかかっているかなと思います。令和3年度から預かり保育も試行実施されましたが、今年度も園児数は少し減少しています。木幡、神明幼稚園は預かり保育を試行実施してきていますが、2年保育で、今年度の新入園児数は1ケタとなっています。市全体の出生数が減少していますし、共働き世帯も増加傾向、転出もあったり、待機児童もないということを考えますと、就学前施設については整理していかなければならないと実感しています。その整理の仕方は今公立幼稚園を選んで来てくださっている保護者と子どもたちにとって満足いくものであり、宇治市の幼児教育にとって利益あるもの、宇治市全体からは一定理解を得られるような着地ができるように、関係者の皆様から教えてもらいながら私自身も深く考えていきたいと思っています。
- 委員： 資料に関して意見とか考え方は、もう少し時間をかけてゆっくり見させていただいて、その後一緒に考えていけたらと思っています。今年度本校では約20園のところから子どもたちが沢山通ってきていただいています。就学指導要領が改訂され幼小の接続が述べられているところで、その重要性は我々も認識しながら1人ひとりの学びをしっかりと支えていかないと実感しています。幼保との連携は今までもやってきて、これからも引き続き行っていきますが、学び育ちを具体化させていくことがこれからとても重要になっていくと考えています。幼保で育まれた力を小学校で伸ばせるようにこの会の中で意見等述べていただければと考えています。

委員： こども発達支援センターは京都府南部地域にお住いの様々な難しさをお持ちのお子さまの療育と医療の両面でサポートさせていただいている事業所になります。子どもの数が減っていることは認識しましたが、当センターにもでてきているのを現実として感じています。特に小さくお生まれになった方とか、ダウン症の方、医療型としてお受けしていますが、年々利用希望が減っている状況です。10年前でしたら20名から30名のお子さんをお受けしていたのが、現時点で8名となっております。少子化なのか医療型タイプのお子さんがどこに行かれたのか。地域でお受けいただいているのであれば連携を強化していきたいというところを感じています。お話を聞かせていただいている中で、宇治市の園で定員割れをしたり、待機がゼロということは、難しさを持っている子どもにとって、地域の中で過ごすチャンスというのが近いものであると認識しています。ただ、難しさをもっているおさんは、入ってからの支援やサポートがかなり重要になってくる。それがないと次の就学、1年生からの生活が難しくなるので、入ってからのサポートもこの会で検討いただければなと思っています。あと、この資料を読ませていただくと、当センターでもそうですが、就労されている保護者さんがかなり増えてきている現状があると思うので、子どもさんのサポートを検討したり、保育のあり方を検討するのもすごく大切ですが、その子の保護者さんの支援、サポートも切っても切り離せないと思うので、これを機に一緒に考えていけたらと思います。難しさを抱えておられる保護者さんのニーズは、当センターでは親子通園をされていますので、地域に戻られる際にどんな支援、サポートがあれば地域に戻りやすいかというのを聞かせていただくことも可能ですので、一緒にいろんなことを検討していければと思っています。

委員： 保育所と小学校に行っていますが、連携が取れているという実感が正直なくて、発達で少し心配な子が1人いるんですが、相談がしづらい状況があります。普通と比べると何かおかしいかなと思っても相談しづらい、そういうお母さんは他にもおられると思うので、同じような人たちと相談、周知できたらいいなと思います。

委員長： 連携しづらいというのは、保育園、幼稚園、相談機関、療育機関とかですか。

委員： 保育所の時もちょっと大変かなというのもあったんですが、小学校に上がるとまた1から先生にお話をし、支援学校の先生にも年に1回くらい相談をさせていただいているんですが、学校生活は大丈夫なのかと。

委員長： 保育園、幼稚園、専門機関の横のつながりもそうですし、保幼小のつながり、連携がしてなくて、ゼロスタートということですか。

委員： そうですね。卒園したら保育園との縁が切れて、また新たに小学校という形になっていると思います。

委員長： 課題の1つだと思います。

委員： 宇治福祉園は1973年、50年ほど前に障害児保育、障害のあるお子さんを受け入れるということでできた保育所です。その2年後には今の児童発達で親子通園ということで、親支援と子の支援を両方やるということで、48年くらいの歴史

になります。当時から宇治市の家庭児童相談室が法人内にあったり、公立保育所の加配の先生方の実習を受け入れたり、男女共同参画ゆめりあうじで保育所を開設したり、宇治市のやられていたファミリーサポートセンターを受託したりとか、宇治市と一緒に共同歩調をとりながらいろんな支援に取り組んできたという思いがあります。今回の委員会が本当に大切だと思っているのは、量のことは行政の担当の方からの説明で十分厳しい状況だと分かります。確かに保育所の充足率は割と高いけれども、それでも年々減ってきているという事実があるから、ここを真正面から見据えていかなければいけないということが一番のところでは思いますし、ただし量から質への転換ということを非常に強く思いますので、そのあたりのところをしっかりとこの検討委員会で議論して、市全域、地域での好事例として評価してもらえるような取り組みになればいいなというふうに思っております。

委員長： 委員の皆様ありがとうございます。他に事務局に質問等ございますでしょうか。本日は、第1回目ということで宇治市の乳幼児期の教育・保育についての現状を事務局から説明していただき、情報共有するとともに、各委員の立場から意見交換をしていただきました。次回からは、こうした現状を踏まえて、それぞれの課題について、さらに掘り下げて検討していきたいと思っております。具体的には宇治市の乳幼児期の教育・保育の基本理念と目指すこども像というものがどういうものになるかという方向性について、及び資料の検討事項1から4の具体的取り組みを通して公立園の意義と役割などについてご意見をいただきたいと思っておりますが、よろしいでしょうか。

異議なし

事務局： 基本理念という部分を最初に言うと、なかなかハードルが高いような気がしますので、就学前の教育・保育のあり方をどうあるべきかということから入っていただいて基本理念に到達する方がいいのかなと思っている部分が1つと、今回のあり方検討委員会の中で公立が持つべき役割をどのように宇治市の乳幼児期の教育・保育の中で生かしていくのかということがあるのかなと思っております。私たちの手元の資料では、私立の幼稚園の特徴がどういうことをされているのかわからないのが実際です。できましたら、アンケートとか次回までには難しいかもしれませんが3回目までの間にまとめる形で、今どういうことをしておられて、どういう特徴があるのかということアンケートさせていただいて、併せて民間保育所、公立幼稚園、保育所の特徴とかも今どこにありますと、委員からもありました量から質ということもありますし、就学前の乳幼児期の教育・保育ということを考えようと思うと、何が、どういう中身がということも必要になるかと思っております。アンケートにご協力いただいて、公立の特徴も一緒に書かせていただいたうえで、どういう機能を持たせていくのか、どういう形でやっていくのかということについて、ご議論、ご意見をいただけるような資料を作らせていただきたいと思います。今ある部分を最大限生かしながらやっていく、先ほど大方先生からもありましたように、前を向いていく形、次の世代の子どもを育てるといったときに、今ある宇治市

の資源を前に進めていくための委員会という形でお話しいただけたら大変ありがたいと思いますので、ご協力いただきますようお願いいたします。

委員長： アンケートと資料について、事務局の方でということですが。

事務局： アンケートの手法については、次回が5月ということがありますので、早期に実施したいと思います。

8 次回以降の開催等について

委員長： それでは次回以降の開催等について事務局から説明をお願いいたします。

事務局： 日程調整をさせていただきましたが、もう少し調整が必要でございますので、また各委員に確認させていただいた後、事務局から決定した日時につきまして、後日ご連絡をさせていただきます。

9 閉会

委員長： 以上をもちまして、本日の議題はすべて終了とし、第1回目の委員会を終了させていただきます。本日はありがとうございました。